

優秀賞

使わなソソソ!自然の恵みで地球も人も快適に

NPO法人 太陽と緑の会

『ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会2008』が、2月9日(土)、10日(日)東京・丸ビルホールで開催されました。47都道府県の代表団体による4分間のプレゼンテーションと書類審査が行われ、徳島県代表の「NPO法人 太陽と緑の会」の取り組みが優秀賞に選ばれました。



ストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会に出場し、3年前の火災後、全国から5,000人を超える方々の支援を受けて、中心になる活動拠点がエコハウスとして蘇ったことを、全国発信できたのは有難いことでした。23年前から「人も物も活かされる

街づくり」をテーマに様々なハンディを持ったメンバーたちと、リユース・リサイクル活動に取り組んできました。初めて全国レベルでのCO₂削減コンテストが行われ、1,000件を超える応募から、私たちを含め47都道府県代表が発表し、様々な刺激をもらう事も出来ました。徳島にフィットした活動の進化と継続、次の大きなテーマを頂きました。

NPO法人 太陽と緑の会 代表 杉浦良



徳島の太陽と風と木を最大限利用した、省エネ・費用対効果が高く環境に優しい「太陽と緑の会自然換気システム」を、独自で考案導入しました。70坪2階建ての店舗兼作業所建物は、事務所・面談室を除きエアコンを設置していません。また太陽光発電パネルと太陽熱温水器を設置することで、電気とお湯の多くを自家生産し、これによりエアコンとガス給湯器の電気およびガス使用量を大幅に抑えています。

●杉の間伐材で断熱



●換気のできる瓦



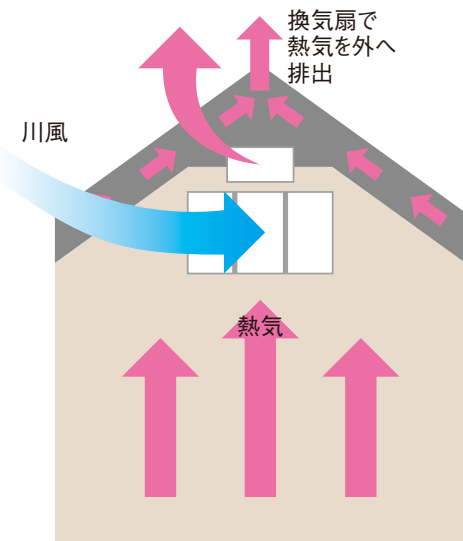
●天井の自動開閉式の換気扇



●東西壁面のガラスルーバー窓

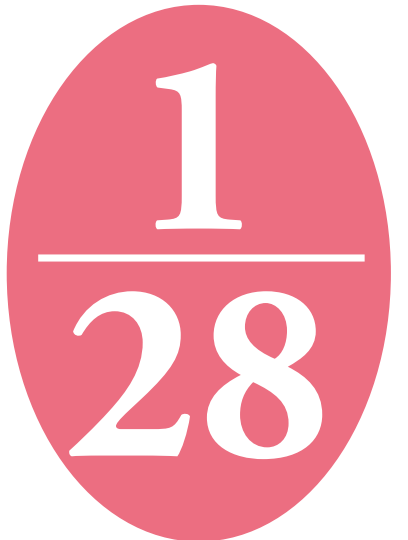


●太陽光発電と太陽熱温水器



太陽と緑の会 「自然換気システム」

夏の熱せられた屋根下の空気は、板と波板トタンの間を通って、三角ダクトに入り、自然換気口から外に排出されます。また東西壁面の高い位置にガラスルーバー窓と換気扇を付け、川からの風を通すことで、熱せられた空気を室内から屋外に押し出します。冬は外気を遮断し、すりガラス窓からは冬の太陽光を入れ施設内を暖め、保温します。



建物における電力会社からの電力使用量を通常店舗として冷暖房を完備した場合の約3.6% (28分の1)に抑え大幅なCO₂削減を実施しています。(※データは当会の試算です)



太陽と緑の会メンバーと建築士の木内さん(左)と代表の杉浦さん(右)

太陽と風と木が教えてくれた
冷やしすぎない、暖めすぎない、「ええ塩梅」。

私たちの「太陽と緑の会」を説明するときはいつも困っています。個々の活動では、ハンディを持つメンバーたちの作業所、地域活動支援センター、リユース・リサイクル活動団体、ボランティア活動育成などどれも一部であり全体を表す言葉が見つからないのです。言葉がないということは他のものと区別をつけることができないということになります。しかしこの簡単に説明できる言葉が見つからないことが、良いことか悪いことかはわかりませんが、私たちの活動が複雑になった社会と向き合ってきた結果だと言ったほうがいいです。

今回のCO₂削減への取り組みも、環境問題として特別に考えていたわけではありませんでした。それと、もう3年前の火災で全壊してしまった作業所の再建が最大の課題でした。その中で、作業所から解放され、「ええ塩梅」の環境の中で作

建が最優先されていたから、まずこの時にあらためて社会、人物、自然と向き合おうということになったのです。

再建に向けての多くの方の善意や物資などが寄せられたことで、身近に「あるもの」の有効利用法を考え、徐々に形にしていきました。無償で提供していただいた地元杉の間伐材を屋根の断熱材として使ったり、川風を利用して換気システムなど、まさに当会の活動のテーマである「人も物も活かされる街づくり」をそのまま実践した結果が、人も物も自然も活かしたCO₂削減になったというわけです。

そしてエコハウスとして蘇った新しい作業所では、今まで大変だった猛暑や寒さの中で、作業所から解放され、「ええ塩梅」の環境の中で作

業効率も上がり、ここに訪れる方々にも好評を頂けるようになりました。

この「ええ塩梅」という意味は環境や生活スタイルについて、それぞれが考え、工夫して良いバランスを作り出すことではないかと思えます。もし作業所を再建するときに予算が十分にあって最新のエコシステムを完備できていたら、この「ええ塩梅」という価値観はもてなかつたと思えます。

今は、このエコハウスを中高生や市民の皆さんに環境学習の場としても利用していただいています。そして多くの方に私たちの取り組みを知って頂き、もっと「ええ塩梅」を広げることができればと思っています。

NPO法人 太陽と緑の会 代表 杉浦良



NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島県徳島市市南岩延小原 107-1
Tel.088-643-1054 / Fax.088-642-1054 http://www2.ocn.ne.jp/~t-midori/index.htm

徳島県 代表選定審査会 「減らさなソソソ!CO₂削減コンテスト」

この事業は、各都道府県において活動する団体等の地球温暖化対策の取り組みを募集するもので、各都道府県で審査の上、代表として1団体が全国大会に出場し、その取り組みを全国に発信することにより、都道府県をまたいだ地域連携を創出し、さらなる地球温暖化対策の推進を図るものです。全国大会に先立ち11月20日に徳島県代表選定審査会が開かれ、最優秀賞としてNPO法人太陽と緑の会「CO₂削減に配慮した建物」(上記)が徳島県代表に、優秀賞には海部郡レジ袋有料化推進実行委員会「レジ袋有料化に取り組んで」に決定しました。

優秀賞 海部郡レジ袋有料化推進実行委員会「レジ袋有料化に取り組んで」



地球温暖化が進む中、3R推進の「もったいない」運動の一環としてレジ袋有料化推進実行委員会を結成し、レジ袋削減に取り組んでいます。マイバッグを配布し、キャンペーンを実施しても、マイバッグ持参率は20%止まりでした。有料化以外にレジ袋の削減はないとの消費者の声をバックに、商店側・行政・消費者の三者会議を重ねました。レジ袋有料化は客数減、万引きの恐れがあるなど様々な問題がありましたが、地元商工会や町内会等との連携をとり、粘り強く前向きに取り組んだことで、商店側を動かしました。3月に調査した結果、マイバッグ持参率は90%を超える勢いとなっています。

環境首都とくしまの実現をめざして とくしま環境県民会議

「とくしま環境県民会議」事務局 徳島県民環境部環境局環境首都課内 TEL.088-621-2261

本事業は、環境省からの委託を受けて実施しています。平成20年度も、ストップ温暖化「一村一品」大作戦を予定していますので、みなさんも地域や職場、学校などで地球温暖化防止活動ができることから始めて、ぜひ参加してください。